



## まみころ会総会・大掃除のご協力、ありがとうございました

まみころ会が発足して、初めて対面式で総会が行われました。役員の方には、事前準備や当日の進行等、ご尽力いただきました。ありがとうございました。

総会後は、まみころ会の4つの行事に分かれて、担当同士で顔合わせと大まかな打ち合わせをしていただきました。準備であれこれとイメージやアイディアを出し合っている姿を見て、人と人との温かく、和気あいあいとした雰囲気、行事が作られていくことを感じました。

まみころ会の行事は、成果や結果を生み出すよりも、“子どもたちも大人たちも、みんなが楽しい”と思えるように、お互いに話し合っ、保護者と職員みんなで、一体感を生み出す場所であって欲しいと願っています。

また、大掃除には、ひよこ・りす・こりす組の保護者にWAX掛けをしていただきました。普段行き届かない箇所を一緒にやっ、大変助かりました。ありがとうございました。

## 絵本・物語は心の土台 ～子どもは一生いろいろな人と生きていく～

私は、できる時には毎回、小学4年生の息子と眠る前に本を読んでいます。先日、同じ小学4年生の男の子が主人公の「びりっかすの神さま(岡田 淳 著)」を読みました。大人が読んでも「頑張れ」と応援することや「勝負」「評価」ということを考えさせてくれる1冊です。

そんな本を読んでいる時に、大きな失敗をしました。それは話の中で「机が横に6つ並んでいて、1列に6人が座っています。」というような文があり、読み終わった後「このクラスは全部で何人？」と安易に聞いてしまったことです。

親として息子に対して心配なことがある私は、分かっているのか、理解できているかの確認を物語ですってしまったのです。親の子どもに対する不信感が、余計に心配な姿につながっているのではないかと思います。

読み聞かせの目的は、知識の伝達や情報の吸収ではありません。親子が“同じ”言葉や絵を見て、感情を交流することに意味があります。子どもは物語の世界を想像し、ドキドキしたり、わくわくしたりと感情を揺さぶられる瞬間を持ちます。親にとっても「楽しんでいるかな」「どんな反応をしているかな」と、子どもの気持ちを想像して楽しむことができます。

そして、子どもにとっても、親にとっても、相手と気持ちが通じ合った、分かり合えたというコミュニケーションの満足度につながっていきます。そこに、感想や内容の確認は不要なのです。

最近、1人1台～複数台のメディア(スマホやタブレット、ゲーム機など)を所持し、同じテレビ番組すらも、一緒に見るということが少なくなっているようです。

保護者の皆さんが毎日、育児・家事・仕事と奮闘されているのは十分承知ですが、そんな中で1日5分でも、1冊でも、親子で一緒に絵本や物語を楽しんでいただきたいです。子どもは絵本を身近な大人に読んでもらうことで自分の存在が認められ、満足感や自己肯定感を得ることができます。

子どもは大きくなればなるほど、親や大人の見えない「子どもの世界」で生きていきます。乳幼児期は、友だちと喧嘩やトラブルがあっても、次の日には、すぐに仲直りして一緒に遊べます。乳幼児期に色々な子がいることが当たり前前の生活の中で、徐々に集団の中の自分の振る舞い方を学んでいるのです。

そんな時に、親ができることは、嬉しい気持ちや悲しい気持ちを聞いて、子どもを信じて背中を押してあげることだけです。子どもの心の栄養補給と、何でも話せる関係作りのきっかけとして、絵本や物語と一緒に楽しんでみてください。

